教材研究ノート№3-A-11

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・2年で九九の計算を学習している。

・2年「九九の表と計算」で，12×4＝10×4＋2×4に変形して計算できる等，様々な求め方で計算している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・32を30と2のように，10の束とばらに分けて考えればよいことを理解している。

○共同追究でのゆさぶり

・位の数だけで計算する経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・十進位取り記数法で，十の位の3は30を表すことを理解している。

≪学習問題≫　　　　　　　　　　　　　　　32

32×3のひっ算のやり方を考えよう。　　×　3

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:32はどのように分けても計算できるのだろうか。

→横の式と同じように30と2に分けて計算すればよい。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:32×3のひっ算のやり方を，32を30と2に分けて考えやり方を図や絵，式で説明しよう。

③個人追究:計算の仕方を考え，図や絵，式で説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方にも共通していることは何だろう？」

→「どれも十の位と一の位の数に分けて計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「3×3は何を表しているのだろうか？」

→「3は十の位の3だから，3×3は30×3と同じ。」

「十の位の数だけで計算しているが，10が3つ分ということだから，10が3×3個あることを表している。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・ひっ算も十の位と一の位に分けて考えればよい。

・ひっ算のように縦に位をそろえて計算すると，位がそろって計算しやすい。

32

× 3

6

90

906

⑥定着･活用問題

ひろし君は，32×3を右のように

計算しました。

ひろし君のまちがいを直しましょう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「十の位と一の位を分けてかけ算してあとでたす」ことを，絵図や式を用いてどのように説明しているかに着目して机間指導を行い，筆算の仕方へのつながりを見通して発表計画を立てたい。

・繰り上がりのない筆算であるため，十の位から計算しても一の位から計算しても大差はないが，繰り上がりのある筆算の手順へつなげるために，両者のやり方を意識させておくとよい。

【板書計画】